天空のムラ

太平寺跡

伊吹山から西に張り出す尾根の中ほど、標高約450m付近に築かれた山岳寺院が太平寺です。太平寺は、仁寿年間（851～4）三修によって整えられ、のちに国家公認の定額寺となった伊吹山寺を前身とします。伊吹山寺は四ヶ寺（弥高寺・太平寺・観音寺・長尾寺）に分立しますが、主要な行事は一山結合して勤められたようです。そのなかでも太平寺は、鎌倉時代に弥高寺と互いに伊吹山寺の本寺を主張した争いを起こすほどの力を持ち、徳治３年（1308）に和与が成立しています。

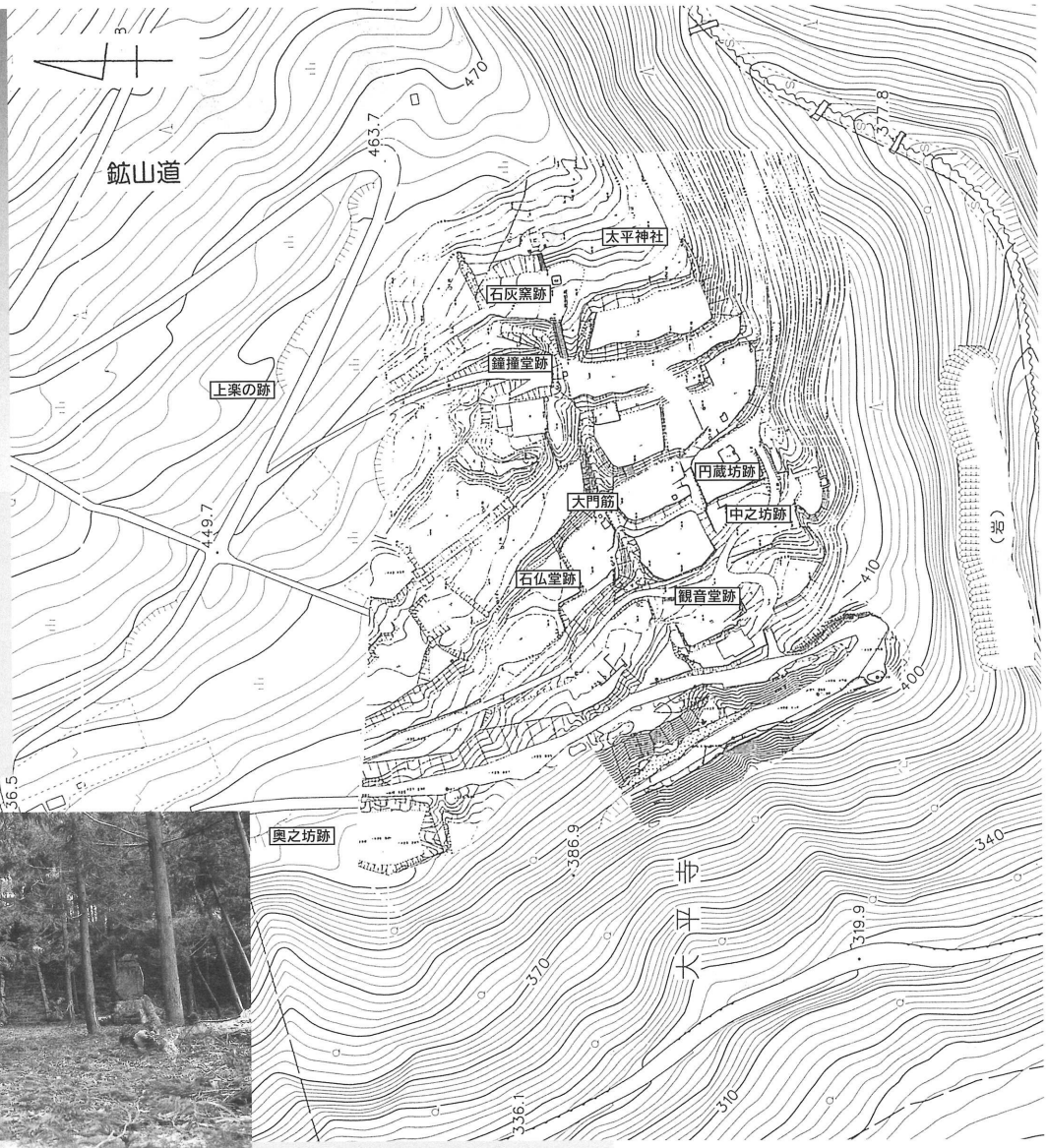
また、伊吹山寺の衆徒や山伏は、鎌倉幕府倒幕をめざす後醍醐天皇方として活躍したようで、元弘３年（1333）には、太平寺に逗留していた亀山上皇の皇子守良親王を奉じて、中山道番場宿（米原市番場）で、京都を追われてきた北条氏の武士団を全滅させる働きをします。北近江の守護・京極氏は初代氏信以降、太平寺城を拠点にしたともいわれていて、山岳寺院の立地と施設を利用して、城郭としていたものと考えられます。

天文５年（1536）の記録には、30坊ほどの塔頭がみられた太平寺ですが、江戸時代には中之坊など、わずかしか残っていなかったようで、特産の石灰を生産しています。昭和39年、集落上方の斜面がセメント鉱山になったのを期に、14戸の集落は、惜しまれながら米原市春照に集団移住しました。

伊吹山（昭和28年撮影）

円空作十一面観音立像

江戸時代の遊行僧・円空は、太平寺の中之坊を拠点に伊吹山で修行をし、元禄２年（1689）像高約180cmの大作を残しました。

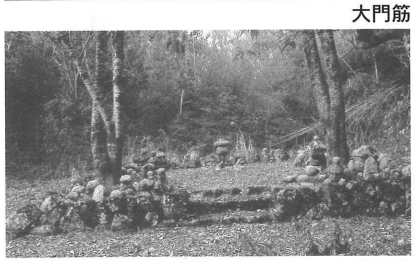


太平寺跡測量図

太平神社（本堂跡）

太平神社

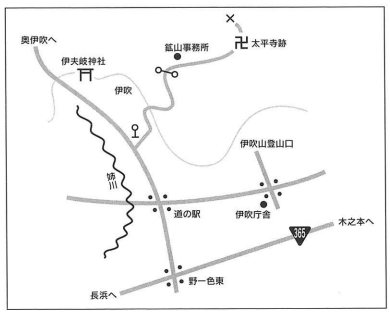
大門筋



円蔵坊跡

太平寺跡の北側はセメント鉱山の開発でかなり改変されていますが、南側には、円蔵坊跡や、円空が止宿した中之坊跡が残っています。天文５年（1536）の伊吹社奉加帳に35坊が記される太平寺は、太平神社（本堂か）を頂点にして、大門筋を中心に坊院が展開し、南端は大富川に面した中之坊・円蔵坊、北が上楽坊や奥之坊までの東西約200ｍ×南北約300ｍの範囲が想定できます。

そして、伊吹四ヶ寺が衰退した近世以降は、修行者の宿坊として機能を維持していた寺域南端の中之坊や円蔵坊を中心に、規模を縮小して成立していたようです。



太平寺へのアクセス

JR近江長岡駅下車。湖国バス曲谷行きで「伊吹農協前」下車。滋賀鉱産伊吹鉱山を経て徒歩約40分。ただし、入山については途中の事務所に目的等を告げ許可が必要。

太平寺跡

所　在　地　滋賀県米原市太平寺

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地　TEL.0749-55-8106

平成19年度　市内遺跡保存活用事業